

A. 報告書作成にあたって

超高齢社会を迎える千葉県において、看護職員不足は深刻な問題である。これまで看護職員確保のために、看護職養成の拡大、WLB 充実による離職防止、潜在看護職者に対する復職支援等、様々な方策が進められてきたが、増大し続ける需要に追いついていないのが実状である。現行の看護職員確保対策は、子育て世代看護職のワークライフバランスの充実が中心となっており、子育てとの両立困難を理由とした離職防止と潜在看護師の再就業に焦点が当たっている。しかし、その実現を支えているベテラン看護職すなわちキャリア後期看護職の就業継続対策は、あまり進んでいない。実際に、40代以降の看護職員の就業率は年齢と共に下降し、種々の理由により、働きたいのに退職せざるを得ない実情が報告されている。キャリア後期看護職の離職は、年齢や経験、家庭状況や身体状況にかかわらず、誰もが同じ働き方を求められることが一因であると考えられる。個人の状況に応じた働き方が選択できるようになれば、働き続けたいと希望するキャリア後期看護職の就業継続が可能になり、それは看護の質的・量的充実をもたらすと期待できる。

我々は、千葉県立保健医療大学共同研究費（学長裁量経費）の助成により、千葉県内に勤務するキャリア後期看護職の看護職セカンドキャリアに関する意向を調査することになった。我々の予想をはるかに超えるご協力をいただき、実に貴重なデータを得ることができた。本調査の趣旨をご理解いただき、調査の実現にご協力いただいた関係機関の方々、ご回答くださった 1700 余名のキャリア後期看護職の皆様にご心より感謝申し上げます。

ここに提示する結果は、整理途中の生のデータである。今後、さらに分析を重ね、キャリア後期看護職が生き生きと働き続けられる社会の実現に向け、提言をしていく所存である。

平成 27 年 2 月

研究代表者 石井邦子

調査結果公表の URL <http://square.umin.ac.jp/cpuhs-mm/>

千葉県立保健医療大学育成支援看護学領域(母性看護学・助産学)HP

B. 調査の概要

I. 調査目的

千葉県内に勤務するキャリア後期看護職の看護職セカンドキャリアに関する意向を明らかにする。

II. 調査方法

1. 調査対象：調査協力を承諾した千葉県内の病院、診療所、訪問看護ステーション、介護老人福祉施設、介護老人保健施設に勤務するキャリア後期看護職であり、調査協力の同意が得られた者。キャリア後期看護職とは、「年齢 40 歳以上の保健師、助産師、看護師、准看護師」を指す。
2. 調査時期：2014 年 8 月から 2014 年 12 月
3. 調査方法：無記名自記式質問紙法
4. 調査内容：基礎的情報、看護職のキャリア、現職での就業継続の意向、セカンドキャリアに関する意向とその理由、セカンドキャリアでしたい仕事、必要なこと、困難／心配なこと、希望する雇用形態、他
5. 調査手順：千葉県内の病院、診療所、訪問看護ステーション、介護老人福祉施設、介護老人保健施設の施設責任者または看護管理者、および千葉県医師会会員に研究協力を依頼した。研究参加の申し出があった施設の調査協力担当者宛に、対象者用研究依頼文書、調査票、返送用封筒を送付し、各施設に勤務するキャリア後期看護職への配布を依頼した。記入済みの調査票は、料金後納封筒により郵送にて回収した。調査票への記入と返送により、研究参加の承諾が得られたものとした。
6. 分析方法：数量化データは記述統計により分析した。自由記載は類似した記載を集約しカテゴリー化した。

III. 調査票の回収状況（2015 年 1 月 20 日現在）

- ・調査協力施設 174 施設
- ・調査票の発送 3187 名
- ・調査票の回収 1713 名（回収率 53.7%）
- ・有効回答数 1689 名（有効回答数 98.6%，回答の不備 18 名，年齢 40 歳未満 6 名）